

## 令和7年度「社会教育フォローアップ研修」開催要項

- 1 目的 地域の生涯学習・社会教育の推進において、中核的な役割を果たす社会教育主事、社会教育士、社会教育施設職員等の専門知識、技術、実践力の向上を図るとともに、社会教育に関わる多様な主体のネットワークづくりをする。
- 2 主催 金沢大学社会教育研究振興会
- 3 共催 石川県教育委員会
- 4 日時 第1回 令和7年 6月12日(木) 14:00～16:45  
第2回 令和7年 8月29日(金) 14:00～16:45  
第3回 令和8年 2月13日(金) 14:00～16:45
- 5 会場 第1回 石川県庁1104会議室  
第2回 石川県庁1102会議室  
第3回 石川県庁1104会議室  
※会場での集合形式で実施すると同時に Web 会議システムを使用し、オンライン形式(同時双方向型)でも実施します。
- 6 対象者 次のいずれかの条件に該当するもの。50名程度 ※参加は任意です。  
・各市町の生涯学習・社会教育行政担当者  
・社会教育主事  
・社会教育士  
・令和元年度以前の社会教育主事講習修了者  
・生涯学習や社会教育施設等に勤務している者  
(公民館主事、青少年教育施設職員等)
- 7 経費 参加は無料。
- 8 参加申込み方法 第1回について、  
令和7年6月5日(木)必着で  
別添の参加申込み用紙に必要事項を記入し、下記の宛にFAX又はメールで申し込むか、右のQRコード先の申込フォームで申し込みます。
- 9 その他 ・第2回については、7月下旬に、募集案内します。



(宛先・申込先)

【事務担当】石川県教育委員会事務局生涯学習課  
(金沢大学社会教育研究振興会)

主 幹(事務局員) 小網 達也

TEL 076-225-1836 FAX: 076-225-1838

E-mail: [t-koami@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:t-koami@pref.ishikawa.lg.jp)

令和7年度 第1回社会教育フォローアップ研修の日程

令和7年6月12日(木)

13:30～14:00 受付

14:00～14:10 開会

挨拶  
石川県教育委員会事務局生涯学習課 課長 小山内 裕之

趣旨等の説明  
金沢大学社会教育研究振興会事務局員

14:10～16:25 情報交換グループワーク【テーマ別交流プログラム】  
(1テーマを35分で3つのテーマをローテーションする方式)

※各自の状況等について、情報交換しながら、今後に向けた方向性等について自由に協議し合う。

【テーマ別交流】

テーマ(予定)

- ①新たな学びの場づくりについて
- ②インクルーシブの視点を取り入れたつながりづくりについて
- ③自らの実践についての報告

時間割

14:30～15:05 テーマ①  
15:05～15:10 移動  
15:10～15:45 テーマ②  
15:45～15:50 移動  
15:50～16:25 テーマ③

16:25～16:35 閉会(アンケート記入)(5分)  
参加者数名に学んだことを発表してもらおう。(5分)

## ★テーマについて

### ①わがまちの「宝」再発見

#### 地域資源を活かした学びのデザインについて

→各市町には、歴史、文化、自然、産業など、様々な地域資源が眠っている可能性があるため、交流会では、参加者それぞれの地域にある資源を共有し、それらをどのように社会教育プログラムに活かせるかを考える。

地域資源の掘り起こし方、資源を活用した学習プログラムの企画・運営のヒントなどを議論することで、各市町に戻ってすぐに実践に繋がられる具体的なアイデアが生まれることが期待できる。

#### (参加者への事前準備)

- ・活かすことができそうな地域資源（歴史・文化・自然などに関するもの）を持参。
- ・自分が考えた課題を2～3ほど準備。
- ・地域づくりシートの活用

#### (具体例)

「うちの町には古いお祭りがあるけど、若い世代が関わらなくなっている。これを学びの機会にできないか？」

「この地域の特産品を使った体験学習を企画したいけど、どんな切り口があるか？」

## ②新たな学びの場づくり

### 地域ニーズに応じた柔軟な学びの展開について

→社会の変化や地域住民のニーズは常に変化しているため、交流会では、既存の社会教育施設にとらわれず、地域の様々な場所や資源を活用した新たな学びの場づくりについて考える。

地域ニーズを的確に把握するための調査方法、柔軟な学びの場を創出するためのアイデア発想法、関係機関との連携を円滑に進めるためのポイントなどを共有し、各市町でより効果的な社会教育を展開するための具体的なアイデアを得ることが期待できる。

### (参加者への事前準備)

- ・既存の社会教育施設ではなく、新たな学びが生まれそうな場所や資源の写真（データでも可）を持参。
- ・自分で考えた新たな学びを展開出来そうなアイデアを2～3準備
- ・「CoDeL シート」の活用

### (具体例)

- ・「空き家になっている古民家を地域の学びの場として活用できないか？」
- ・「地域の企業や地元の伝統工芸職人と連携して、新しい職業体験プログラム開発や地域住民のリカレント教育やスキルアップに活かすことができるか？」